№　５４　令和４年 11 月 15 日

道

m i c h i

紅葉に囲まれる箱根美術館と観山亭

NOV. 2022

世界救世教　明主様と聖地に直結する会

幸福を生む文化

いつもいう通り、人間の欲望を一口に言えば、幸福であるのは分かり切った話である。その目的に向かって何千年も前から、人類は営々努力しつつ、ついに現在のごとき絢爛(けんらん)たる物質文化が造られたのであるから、慥(たし)かに唯物的には予定通りに成功したのである。ところが今日の人間が、俺こそ真の幸福者であると思っている人は、果たして幾人あるであろうか、恐らく百人に一人も難しいであろう。見よ、いつになっても戦争の恐怖、病気の恐怖、貧乏の恐怖のこの三大苦難がつき纏(まと)っていて離れないのが人間の常態ではないか、としたら現在は幸福どころではない。せめていま少し安心して暮せる世中になって欲しいと思うのが、誰もが抱く精いっぱいの欲望であろう。

このような世の中を切り替えて、本当に幸福な世界にするのが本教の目的で、しかも立派に実現の可能性があるのだから空前の救いであろう。それにはまず何といってもいままでの文化の誤りを指摘し、本当のやり方を教えることである。いままでのような上面(うわつら)ばかりを好く見せかけ、形のみの文化では駄目で、どうしても内容もともに良くならなければならない。つまり偽(いつわ)りのない社会、いまのように誤魔化(ごまか)し本位で、善人らしく見せてる悪人の多い社会では、幸福などありようわけがない。もっと分かりやすく言えばいまの世の中は悪七、善三というのがありのままの姿であろう。三とは勿論(もちろん)正善愛であるが、七対三ではどうしても善が負けるのは当然である。事実悪がノサ張りすぎて、善が下積みにされているのが現在であるから、不幸災厄は次から次へと作られてゆき、まったく苦の娑婆である。ところがここで考えてみなくてはならないことは、単に悪といっても容易に判断がつき兼ねる悪がずいぶんある。というのは現代の悪は智能的になっているため、巧妙に善の仮面を被(かぶ)り、悪を逞(たくま)しくする人間も少なくないが、一層始末の悪いのは、悪を善と誤り信じて、一生懸命になっている人達である。

まず第一は人間の最大悩みである病気を解決すべく、生命を賭してまで研究をしている学者はもとより、世界中の医学に携(たずさわ)る人々もそうで、真剣に人を助けるべく善と信じて実は悪を行っている、そこに誰も気がつかない。これは常に私が警告しているところである。また作物に人為(じんい)肥料を施すのを善と信じて、実は不作となることに気がつかない、大多数の農業関係の人達である。また共産主義をもって最大多数の労働者階級に、最大幸福を与えると思って一切を犠牲にしてまで闘っている多数の人達もある。

以上のごとき人々こそ、結果から言えば無智で、悪を善と信じて行っているのであるから、その熱意の強いことも別で、すこぶる効果的である。これら数々の原因を検討してみるとき、真相を見通し正邪善悪を判別するところの叡智こそ必要である。というのは間違っていることでも、長い歳月のため、医学の理論が固定化し、伝統的となり迷信化してしまったものである。ではなぜ真実が発見されなかったかというと、まったく時が来なかったからで、時こそ絶対の支配者である。そこで神は私という者を選んで、一切の誤謬(ごびゆう)を啓示(けいじ)され、しかも叡智否(いな)神智をも与えられたのであるから、叡智でも分からないことが私には分かるのである。ここでいま一つのことを言わねばならないが、右のごとき時というのは、いままでのごとき悪の七の力は漸次(ぜんじ)薄れて、三であった善の力が四となり、五となり、七となるのである。いつも私が唱える夜は終わって昼となりつつあるという意味で、これが分かったならその人は真の幸福を掴んだのである。

（「栄光」149 号　昭和 27 年 3 月 26 日）

浄瑠璃物語絵巻　伝岩佐又兵衛勝以作　重要文化財（ＭＯＡ美術館所蔵）

《目次》

御教え　2
代表挨拶　4
ＭＯＡ美術館の浄瑠璃物語絵巻　9
神戸須磨集会所開所　10
京都平安郷一泊奉仕研修　13
感謝奉告　16
土佐市民文化祭で迎え花を担当　17
11月度聖地行事　18
いづのめ教団月次祭　信仰体験　20
ブラジル信徒の信仰体験談　23
【21世紀を生きる】（1）　その②　高頭　和生　25

令和四年

明主様の示された「道」を求め、まっすぐ歩む

～ 祈り 実践 感謝 ～

〖代表挨拶〗

西村　正資

葦原（あしはら）の　瑞穂（みずほ）の神代（みよ）ぞ　しのばるゝ
見渡（みわた）す限（かぎ）り稔（みの）る稲田（いなだ）に

（昭和二年一一月三日　明主様詠）

野山の色づきも日々に濃くなり、趣味の散歩も一層楽しくなっています。皆様、お変わりないでしょうか。

今年も豊かな実りを許されています。農水省の報告では、水稲の作況指数は全国平均で一〇〇、つまり例年通りの収穫が予想されています。まことに有難いことで、私は、〝また一年、生きることを許された〟と考えることにしています。

昔は、秋の不作が、翌年の飢きん飢餓に直結していました。ですから収穫は、この先一年、家族揃って無事生活できるかどうかを占うとても重要なことであり、地域総出で神社仏閣を大切にし、豊作を祈ってきたのでした。

日本の食料全体の自給率は38％だそうですが、足りない62％の食料は、海外からの輸入に頼っています。

国連の統計では、八億二八〇〇万人が慢性的な飢餓状態にあるそうです。その内の五歳未満の子供一億四九〇〇万人が慢性的栄養不足だそうです。

以前、世界中の人々が、腹八分の食生活をしていれば、飢餓は解決されると聞いたことがあります。しかし、食料は、お金で取引される性質上、どうしてもお金持ちの国に支配され、結果的に富裕国が、自覚しないままに多くの人々の飢餓を生むことに拍車をかけることになっているのです。その富裕国の中に、日本は入っています。

神様は、そのような国に暮らす私達をどのようにご覧なのでしょうか。おそらく傲慢（ごうまん）な存在だとお考えなのではないかと思うのです。今直ぐ何かができるのであれば、夫々の立場で取り組まねばなりません。また同時に〝社会のために、隣人のために〟という生き方を身に修める努力をはかり、傲慢ではない自分づくりを目指さなければ、神様から見放されてしまうのではないかと感じてい

ます。

神戸須磨集会所開所

先月は嬉しいことがありました。一〇月二三日、神戸須磨に集会所が開設されました。

お蔭様で、関西地区の会員も多くなり、また、今後の当会の活動を考えると西に拠点となるところを設けたいとの判断で、春頃より探しておりましたところ、神戸の信徒の中濱様より、「須磨にある貸家の住人が退去されました。狭い所ですが、一度ご覧になってみませんか」との申し出をいただき、この度の開所にいたりました。

本格的に探し始めたタイミングでこのような申し出をいただき、内部もフルリフォームして下さいました。備品の多くも、皆様が誠で持ち寄って下さいました。そして、三八年前、教団護持委員会の兵庫県最初の会合の場が中濱家であったことを伺い、驚きと共に不思議な神様のおはからいを思い、信仰の原点に還ることの大切さを感じました。

開所式は、午前午後に行われ、五四名の皆様が、ご参拝下さいました。皆様は、互いに肩を触れ合わせながらも、活動の拠点を許されることの喜びを心から感謝され〝協力し支え合って、明主様のみ教えを学び、ご浄霊を通して多く人の喜び溢れるところにしたい、信仰の仕切り直し〟と、笑顔と熱気に満ちた開所となりました。

平安郷一泊奉仕研修開催

コロナで延期されてきたご奉仕が、三年ぶりに許されました。四九名の参加者が、奇遇にも、延期されてきたことで、明主様が一九五二年一〇月二〇日にご入手されて七〇周年にあたる平安郷に、呼び寄せられるように集わせていただきました。参加したメンバーは、いづのめ教団の心温まるご配慮やお気遣いに感動しつつ、当会全ての皆様の代表という意識と祈りで、一泊奉仕研修会を開催させていただきました。

参加者の喜びのご報告は、今号に掲載されています。ぜひ、感動を共にしていただきたいと思います。

先月号の感謝奉告に、学ばせていただきたいと思います。

『道』一〇月号、感謝奉告より

帯状疱疹――ご浄霊を許される幸せ

田川布教所の武田和江さんは、今年一月突然帯状疱疹の痛みに襲われました。頭皮、耳の中、首まわりを針で刺されるような激痛で、苦しまれました。これは、体験した者でないと分からない痛さだとよく聞きます。大変でした。夜眠れない時、自己浄霊をすると一瞬楽になり、見かねた

御主人やお母さんが浄霊を取り次がれ、身近に浄霊できる人が居ることの喜びを表現されています。そのような方が、側に居ると居ないでは大きな違いが生まれます。これまで元気で来れたことで感謝が薄れ、家族での相互浄霊ができていなかったことにも気づかれ反省されています。困った時の信仰も大切でしょうが、普段の感謝の生活と報恩の心こそ大切だと気づかれました。

仏壇が火の海に――祖霊の知らせと救い

東大阪の豆井陽子さんは、ご守護報告がすごく多い方だと感じています。感謝の思いがさらに新しい感謝を呼び込むのでしょうか。いろいろなことが起こるようです。それは豆井さん周囲の霊界が、大きく動いているからではないかと思うのです。今回も、聖地祖霊大祭へのご参拝直前に、仏壇から火の手が上がったものの、他に燃え移る直前に気づき、大難を小難にではなく、無難に済ませていただいた奇蹟です。霊界が大きく動くということは、私達の身辺も大変忙しくなることを意味します。そこには、深い意味があり、守護霊やご先祖様が活躍をされるということであり大変結構なことと思います。

豆井さんは、今回の事で、信仰を教えてくれた両親やご主人への感謝を整理され、祖霊大祭へのご参拝は、ご先祖様への感謝をしっかり整え、心の研鑽をする大切なご参拝と心の向きを正していらっしゃいます。

まさに『想念次第』でした

ＫＭさんは、右肩が急に痛くなりました。その時〝原因は私にある〟と思ったそうです。それは、ご主人との行き違いから、一切無視を決め込んでいたそうです。気づくというのは信仰の基本〝覚り〟の一種ですから、普段から御教えをよく拝読されていらっしゃるのでしょう。そこで、我を折り、自らご主人への感謝ごとを見つけ、それを素直に言葉にされているのです。何気ないことのようですが、以外に難しいことではないでしょうか。

他でよく聞くのは〝夫婦は互いに負けられない最大のライバル〟だそうです。何と我を乗り越えたところで、ピタッと痛みが消えたのです。幸せへの最大の障壁は、自分の内側、自我の強さに有ったのですね。

今月は、想念の大切さを学ばせていただきました。

このことは、明主様の信者であれば、皆よく知っていることです。しかし、日常生活の中でそれを実践することは、とても難しいと思うことがよくあります。

過去、私にとって忘れ得ぬ貴重な出会いがありました。

感謝箱に救われた憎しみの心

二〇年程前のことです。ＨＭさんは、大阪某布教所の高齢資格者でした。ご主人の年祭を自宅でお願いしたいというので、府営住宅に伺いました。

ＨＭさんは、以前会社の社長夫人で幸せな生活をされていたと聞きますが、私が訪れた頃は、会社は倒産し、ひとり住まいの質素な生活をされていましたが、その立ち振る舞いも言葉も、そして身なりもとても上品な方でした。

年祭も終わり、お茶をいただいて、ご主人の思い出話を聞いていた時です。突然、「どうしょうようかな？辞めておこうかな？」と仰います。それで、「聞きましょう」と促し、耳にした話に大変驚きました。

「とても恥ずかしい話しですが、私は鬼のような人間です。私のお腹に石のような塊（かたまり）があるのです。この塊は憎しみの塊です。実は主人には生前お妾さんがいまして、その主人と妾さんを、どうしても許せないのです。あの二人のおかげで会社も倒産してしまったと思うのです。思い出すだけで怒りが沸き起こるので、できるだけ思い出さないようにしています。二人とも亡くなっています。私は信仰者ですから、身寄りのなかったお妾さんも一緒に祖霊様としてお祀りしているのですが、やはり、この憎しみの塊はどうしても取れません。もう、霊界まで持っていくしかないとあきらめています」、そしてみぞおち付近に手をあて「今もここに塊があって、人を憎むは穴二つでしょ。私も苦しくて苦しくて仕方がないのです」ということでした。

そこで明主様のお力は絶対なのだから、何か方策は見つかるはずだと話し合いました。〝憎しみの反対は感謝だから、感謝すれば、次に感謝が生まれるようになるから感謝しようよ〟ということになりましたが、「理屈では分かりますが…」と、本人は全く自信がないようでした。そして「こんなに憎んでいるのに、感謝なんて湧いてきません。神様に嘘はつけません」と仰います。

最初から完璧はあり得ないので、〝形からスタートしても許されるでしょう〟と、まずお妾さんへの「感謝箱」の実践をすることになりました。一日一回、必ずお妾さんへの具体的な感謝すべきことを思い出し、感謝箱に献金をお捧げする。ここまではようやく決心できました。「いくらまでならお金入れれます？」お気持ちを聞いたら、「正直入れたくありません」「百円では？」「とんでもないです」「十円では？」「無理です」「じゃ一円玉は？」「それでいいんですか。だったら何とかできます」と、決まりました。

しかし、それでも「何を感謝するんですか。そんなの思いつきません」と仰るので、「それはそれで明主様にお祈りして知恵をいただく努力をしましょう」ということで、一緒に感謝に気づくための祈願参拝をしました。

翌早朝、電話があり「感謝が見つかりました。私が主人を放って出かけてばかりいたものですから、淋しい思いをしていた主人は、彼女に癒されたのでしょう。妻として御礼を一言と思い、感謝を神様に申し上げて、ようやく一円入れました」ということでした。しかし、次には「もう、感謝することはありません。困りました」との事でした。次の日も電話がありました。「彼女が私の魂のくもりを取って浄化し、浄めてくれているなら、それはそれで感謝しなければ」ということでした。その次の日も電話があり、何とかこじつけるように実践されました。

たしか五日目の夕刻であったと思います。「お腹の塊（かたまり）取れました。苦しみも無いんです！」と、大きな声で泣きながら電話が入りました。

後日、「私は、たった五円の恨みを、何十年も大事に抱え込み、苦しんで、そして諦めていたのです」「自分のことなのに、我の怖さを改めて知りました」。

それから一ヶ月も経たない内に「朝起きるとみたまやに〇〇さん、おはよう〟と先に彼女の名前が出るのです。主人の事はなぜか後回しになり、今では、戦友のような関係です」「生きている内にこんなに幸せな気持になれるとは…。今が人生で一番幸せです」と。

私は内容が内容だけに、感謝奉告は名前を伏せて、と促しましたが「いいえ、これは私の罪滅ぼしですから、かまいません」と、毅然と感謝箱に救われた喜びを、実名で当時の機関誌を通し、全国に向けて感謝奉告をされました。その後、周囲では、感謝箱の奇蹟が相次ぎ、大きく発展が許されたことを記憶しています。

明主様の信仰の世界は、奇蹟に包まれています。そして、幸福への道筋はどこをみても溢れています。あとは、私がそのことに気づくかどうかなのです。

今年もあとわずかになりました。明主様を見つめれば自我は必要なくなります。目をしっかり見開いて、明主様が示された『道』を求め、まっすぐ歩ませていただきたいと思います。これは、今年のスローガンでもあります。副題は〝祈り・実践・感謝〟でした。

皆様と共にどこまでも、明主様の大いなる導きをいただき、歩みたいと願っています。手を取り合って進んでまいりましょう。よろしく、お願いいたします。

MOA 美術館の浄瑠璃絵巻物語(重文)

伝岩佐又兵衛勝以作　江戸時代（17 世紀）

岩佐又兵衛勝以(いわさまたべえかつもち)（1578～1650）は、江戸時代初期の絵師で、豊頬長頤(ほうぎょうちょうい※豊かな頬と長いあご)の人物表現や和漢が混合した独特の画風で一世を風靡(ふうび)し、のちの絵画に多大な影響を与えました。その作品は、中国・日本の古典や歌仙絵などに取材したものから当世風俗を生き生きと描いたものにまでおよび多様な主題をみることができます。なかでも、操浄瑠璃(あやつりじょうるり)の正本（上演用テキスト）を詞書(ことばがき)とした極彩色絵巻は、又兵衛工房の総力を結集して制作された長大な作品で、又兵衛風古浄瑠璃絵巻群としてよく知られています。

明主様は、第二次大戦後、又兵衛作品を蒐集し、又兵衛の一大コレクションを作り上げました。そのコレクションは、重要文化財 4 件、重要美術品 3 件を含む 15 件からなり、特に又兵衛風絵巻群の充実は他に類を見ません。それぞれ全長 120 メートルを超える絢爛豪華(けんらんごうか)な絵巻は、MOA 美術館の誇る収蔵品の一つとなっています。

この「浄瑠璃物語絵巻」は、源氏の御曹司・牛若丸を主人公にした絵巻で、奥州に下る牛若丸と矢矧宿(やはぎじゅく)の長者の娘・浄瑠璃の恋愛を中心に物語は展開していきます。見所は何といっても、金箔や金銀泥、緑青(ろくしょう)に群青(ぐんじょう)といった高価な顔料をふんだんに用いた色彩の華麗さです。又兵衛の筆とされる絵巻の中でも群を抜く華麗さです。

神戸須磨集会所開所

10月23日

神様が用意された集会所

一〇月二三日（日）神戸須磨集会所が開設された。

午前一一時、門埜責任役員の先達のもと、御神体奉斎式が執り行われ、祝詞奏上、御讃歌奉唱、ご浄霊と式典を滞りなく終え、第二部では門埜役員から開設の経緯報告があり、信徒の感謝奉告、西村代表挨拶、そして集会所責任者武田所長より挨拶があり、感動の中で祝賀の行事を終えた。午後二時からも開所式が執り行われ、五四名の参拝者は、開所の喜びと共に、今後のご用奉仕への熱い思いを語り合った。

玄関

家主である中濱泰明さんは、集会所としてお使いいただく喜びを次のように報告された。

関西地域で集会所を探しておられて、タイミングが良くこの建物をリフォームしていたところであった。八月、九月の暑い時に、金属屋根のペンキ塗りを、休み休みで三回塗った。エアコンは壊れて入れ替え、ガスコンロも不具合があり、新しいものに取り替えた。床は新建材ではないので、素足でも温かい。神床にあたる板も広いものを用意し、奉斎の時にはまさにぴったりのサイズで喜びも一入だ。当に神様が用意された施設としか考えられない。

参拝された方々の感想

ＫＡ

狭いけれど駅近で、雰囲気のある場所で良かった。今の私たちが明主様からいただいた最高の場所だと思います。ここを中心として光の輪が拡がって行くんだなと思わせていただきました。

ＵＥ

雰囲気のある場所と家屋で、集会所として素晴らしいと思いました。この集会所を拠点として、これから関西地域のグループが一つに結ばれていくんだと思わせていただきました。

ＳＫ

初めての拠点としては、これくらいの広さが宜しいかと思いました。これから各グループの活動から兵庫・大阪の繋がりのある活動に発展させていただける

第一歩だと、大変喜んでいます。

ＫＤ

交通の便が良くなり嬉しいです。何より自分たちの拠点が許され、大いに参拝に、ご案内に、許されたら良いなと思います。

霊界の夫と二人三脚で！

淡路グループ　中川　美子

発表される中川さん

関西の拠点、開所おめでとうございます。直結の会が発足として五年目になのですね。最初は門埜先生、大久保先生が何回も足を運んでくださり、メシア教、教主様の実態を伝えて下さいました。主人もいろいろと調べ「信者の事を一番に考えて行動したい、少し様子を見て立ち上がる」と言っていたのに病気になり、霊界に旅立ってしまいました。それからのメシア教はすっかり変わってしまい、真善美はグローリーに代わり、天津祝詞、善言讃詞はなくなり、御浄霊はできなくなり、お花も自然農法もなくなりました。教会に参拝することが苦しい日々が続きました。その頃、私は東光の御用をいただいていて、淡路布教所は、主人達兄弟が育った家だったので、私の勝手で脱退して布教所を離れる事はなかなか言い出すことができず、悩みました。でも、主人の一年祭をアーメンで送り出すのはゼッタイいやでした。

そんなある日、東光がなくなり、普段から教主様への疑問を質問していた私に、突然メシア教の先生から、「あなたは教主様に反発しすぎです」「脱退ですね」と言われ、「はい」と答え教会を去りました。心はすごく幸せでした。でもお世話している主人の姉、妹、弟には私の気持ちを伝えてから脱退しようと思っていたので、帰ってすぐに皆さんに連絡しました。理解していただけない事もありました。でも、明主様はすぐに、すごい奇蹟を下さいました。主人の弟(中川孝二さん)を直結の会に入会させてくださり、色々な不安をすべて好い方向へと導いてくださいました。孝二さんは、今、聖地直結の会の専従者となられ、大きな御用をいただかれています。

主人も一年祭の折に聖地直結の会より参事を追贈いただき、霊界で大きな御用をしています。私も淡路の信者さんたちと日々、明主様、ご先祖様に感謝し、歩ませていただいています。

淡路グループでは、月に二ヶ所で集会が行われ、明主様と結ばれています。御浄化の方々に御祈願、遠隔浄霊、訪問と協力し合って、今、出来る事を皆でさせていただいています。でも、今は淡路の信者さん、す

べての方が集える場所がありません。皆の願いは、淡路布教所が、淡路の聖地となり、明主様のみ心にお応えし、すべての方々が笑顔で幸せに過ごせる事です。今は祈るしかありません。善き祈りは神様に必ず通じます。皆で日々、実践していきます。

　これからも、大神様、明主様に結ばれた幸せを忘れず、聖地直結の会に導いていただいたことに感謝し、明主様のお心、お考えの実行に努めてまいります。

左上・お祝いに参集した信徒（午前の部）
左上二枚目・午後の部に参集した関西の会員

右下・喜びあふれる会員の皆さん（11 月 8 日・集会にて）
左下 2 枚・１階で談笑する会員

京都平安郷一泊奉仕研修　11月5・6日

鮮やかな紅葉に迎えられた研修会

除草奉仕後、楠風荘前で集合写真

感想文より（抜粋）

◇初平安郷です。以前より来たかった聖地でしたが、浄化でなかなか来れず、今回清掃奉仕だったので、是非との思いで必死に来させて頂きました。口では言い難いですが、落ち着く空気感、香り等、とても凄い所でした！

◇明主様が、ここを歩かれた！今ここにいらっしゃる感じがしました。

◇この広い敷地を、いつも綺麗にして頂いて「いづのめ教団」の職員、信徒のみなさまに感謝でいっぱいです。空気がとても爽やかで、気持ち良かった。

◇明主様が、平安郷をご入手されて七〇周年という記念の年に、二日間も居させて頂き、ありがたく思いました。沢山おひかりをいただきました。「天国」にいる気持ちになりました。

◇多くのお話し、浄化のお話しは、私の心に染み入ることばかりです。現在浄化を頂いている私にとって、心強く感じられました。心が折れそうになった時、どうしていいか分からなくなった時、平安郷での体験を思い出し、前に進むことができたらと思います。

◇足が悪いので、すわっての草むしりを心配していましたが、私に相応しいガラスふき、トイレ掃除の御用を頂き、本当に良かったです。参加をためらっていましたが少しでも奉仕出来、目的の一部が達成できて少しは満足です。平安郷の方々の真心こもったお食事を頂き、高齢者向きのメニューで大変美味しく頂きました。感謝申し上げます。

運営スタッフ

聖地は光あふれる所だと身をもって痛感

中川　孝二

今回の奉仕研修会の打ち合わせを、平安郷研修センターの担当者とさせていただいたのが９月上旬でした。研修センターの方々もコロナ禍で大勢の研修を受け入れることが久しぶりということでした。この奉仕研修会に参加された方が、良かったと思って帰っていただけるようにという想いが、受け入れ側のいづのめ教団職員からひしひしと感じ取れました。本当にありがとうございました。

研修直前の自身の浄化、そして学び

研修３日前から持病の腰椎椎間板ヘルニアの痛みが出て、コルセットを装着してようやく動けるという状態でした。当日不安ではありましたが、コルセットをしていれば大丈夫な位に痛みは落ち着いていました。

いざ奉仕作業の為に着替えをし、コルセットを外したのですが、全く痛みが無く、普通に動ける事に気付きました。それでも不安であれば装着するのが当たり前なのですが、その時は〝このままでいけると〟感じたのでした。

その後、奉仕研修が終了するまでコルセットを装着することありませんでした。

この体験を〝あぁ良かった〟で済ますことはできません。何故か‼と深く考えると、大神様、明主様の想いを感じ取れなければいけないということと、奉仕研修のお世話係として、御用を全うしなければいけないと思いました。そして、このような浄化の中での御用を通して、普段では気付けないことを教えようとされたのではないでしょうか。

聖地平安郷に身を置くということは、当然ながら、聖地に働く力を受け、そして、ご奉仕の時、懇切丁寧に作業の仕方を教えて下さった職員の方や、一生懸命にその作業をされていた参加者の姿を拝見し、私自身が浄めていただいたことは間違いないと思っております。そして、ご奉仕後、研修センターに戻ると、いづのめ教団職員の方々の気配り心配り、お心遣いが快く感じられ、体調がさらに好転させていただいたのだと思います。

神様は人を通して働かれる。人を通してメッセージを伝えられるということを痛感致しました。

もう一つの学びは、誠です。「これで良いというのは無いのだ」と。〝もっと、もっと、出来ることは〟と、思い続けることが、誠を尽くすことなのだと改めて思いました。ありがとうございました。

最後に、明主様の御教えの中で『私は信仰の究極の目的は、完全なる人間を作ることであると思う。もちろん世の中に完全ということは望み得べくもないが、少なくとも完全に一歩一歩近づかんとする修養――これが正しい信仰態度である。』とあります。このことをこれからの拠り所として行きたいと思います。

明主様を求める参加者の姿に学ぶ

武田　安広

参加された方々の奉仕をさせていただくという意識の高さが印象的でした。全体会合では種々困難を乗り越えて明主様を求めて来られたこと、明主様に対しての感謝の思いを強く感じ、一信徒としても、信仰の大先輩の方々から明主様への姿勢を学ばせて頂きました。

いづのめ教団の皆様には細かな気配り心配りを頂き、世話係含めてお世話になり、たいへん有難く感謝の気持ちでいっぱいです。

奉仕研修の願いを入所参拝で確認

広沢池畔もていねいに除草

いづのめ教団による抹茶接待（上の茶屋）

研修初日、雑草を除いて、苔を保護

二日目も絶好の奉仕日和

自己紹介と共に奇蹟の報告が相次ぐ

【感謝奉告】

聖地の写真に癒され体調が改善

土佐みろく教会　Ｈ　Ｓ

コロナ禍が始まってから、なかなか聖地参拝ができない状況が続いていました。そのため、聖地参拝を許されたいと願っていたところ、ある信者さんから聖地の写真が送られてきました。写真に写っていた神仙郷の紅葉の綺麗さに魂が浄まる思いでした。驚いたことに、聖地の写真を見てから体調もどんどん良くなっていくのです。あらためて、聖地の素晴らしさを感じました。

明主様、ありがとうございます。

瑞雲郷のツバキ

12月23日

御生誕祭並びに信徒集会のお知らせ

明主様ご生誕から今年で一四〇年。「明主様と聖地に直結する会」は会員の皆様と共に記念すべき御生誕の祝賀を聖地でお迎えさせていただきます。

今年一年に賜わりました数々の御守護に御礼のご奉告と、来るべき新たな年の目標の報告並びに達成祈願も併せて執り行わせていただきます。会員の皆様におかれましては万障お繰上げの上、熱海聖地における御生誕にご参拝くださいませ。

なお、祭典終了後、執務棟におきまして「聖地直結の会全国信徒集会」を開催いたします。所要時間は約三〇分を予定しています。ご参拝の皆様におかれましては、是非ご参加くださいますよう、併せてご案内を申し上げます。

土佐市文化祭で迎え花を担当

土佐みろく教会

迎え花生けこみに参加した会員の皆様と出展作品

〝明主様の光を観る人すべてに〟の祈りで生ける

土佐みろく教会　Ｙ　Ｍ

土佐市民文化祭実行委員会より、今年もお話をいただき、土佐市の文化施設内で迎花等を生けさせていただきました。

今回は、土佐みろく教会発会にあたり、信徒の方が寄贈して下さった傘立てを花器に見立てて生けさせていただきました(水漏れ防止のタンクをいれました)。

文化祭は一〇月八日、九日に開催されました。期間中、山月教室の生徒の皆さんがお花の手直しに行って下さいました。生けこみも終盤の頃、文化祭の来場者の方から、フェイスブックに載せてよろしいですか？とお声をかけていただきました。有難いことです。皆さんの今後の励みにもなります。

一一月には市民展と続きますが、迎花には生徒さんの傘立てを使用させていただく予定です。

華展出展者は、一様に、明主様のお花を生ける思いで取り組むと、不思議と花材、花器がその時に相応しいものが見つかると言われ、「お花を見に来ていただいた皆様へ遍くお光が届き、幸福になっていただけますように」という祈りで生けさせていただきました。

ご面会・豊饒感謝の日(箱根)

大神様、明主様に、今年一年の恵みに感謝の御奉告

一人ひとり明主様への思いを胸に祈る

11月度聖地行事

豊饒感謝と併せた今月のご面会は、秋の青空のもと鮮やかに色づいた紅葉に囲まれ斎行されました。コロナ感染症拡大防止対策が講じられる中でも、聖地に参拝を希望する信徒の動向は確実に増えています。そして、施設改修が進む神仙郷の槌音も、着実に日々進歩しています。

月次祭(熱海)

拝殿に響く厳粛な祝詞奏上

感染対策を図りながら真摯に祭典に臨む信徒

奏上された月次祭祝詞には、混迷する世界の情勢に対する深い祈りが込められていました。参拝者一人ひとりが大神様、明主様の御守護にお応えし、先駆けて〝御教えの実践、利他愛の浄霊実践に立ち上がらせていただく時〟との思いを新たにしました。

【いづのめ教団月次祭　信仰体験記】

我が子を通して育まれた神を顕す信仰

北海道センター　葛原　吉祐　41歳

11月度聖地月次祭、おめでとうございます。私は専従して15年。北海道センターにて御用の場を許されて11年目となります。この間、厳しい教団浄化も信徒の皆様に支えられ、一緒に乗り越えさせていただき、今日を迎えています。それは明主様信仰への回帰、そして一人ひとりが明主様と繋がる自立した信仰を求めての歩みと理解しています。

この意識に立ってこの数年間、信徒の皆様と一緒によく話し合い、専従者中心ではなく、総代の方々やセンター長の方々との合議制をもってセンターを運営し、御用奉仕に取り組んできました。日頃のお世話では、特に御浄化に際して、共に道を求める機会は多々あります。東日本エリアの重点課題である「21世紀の浄霊觀、浄化観」を求め、「浄化は神の愛」や「先は光」「神在りの真理」を学び合い、感謝で受け止めることを心して参りました。

その営みの中、私がこの度の、子供の浄化を通して自分の信仰の拙さ、未熟さを思い知らされるものでした。

我が子は生まれる前の検査にて大動脈離断症のB型という心疾患があることが判明しました。同時に将来にわたり障害のあることも知らされ、絶望的になりました。信徒の皆様には「明主様」を説きながら、自分の問題となると狼狽えてしまい、自らの信仰は本物ではなかったことを痛感させられました。しかし、我が子の浄化を通して明主様が云われる神様に繋がる信仰に覚醒することができました。今日この場で体験報告をさせていただくことを先ず感謝し、我が子を通して明主様が自らの信仰に大きな気づきと体験をさせていただいた御守護を、「我が子を通して育まれた神を顕す信仰」と題して、報告させていただきます。

昨年、妻は妊娠24週目に入り、大学病院で詳しく胎児の検査をした際、「大動脈離断症B型」「心室中隔欠損」「不整脈」「大動脈低形成」「大動脈弁低形成」と診断されました。まさか子供を通じて自分の身にこのような形で降りかかるとは思ってもいませんでした。不安や焦り、悲しみが先に出て、原因探しをし、「なぜ」「どうして」と不満や愚痴で悶々とする日々が続きました。

常日頃、信徒の皆様に「浄化は神の愛」と取り次いでいながら、いざ自分の身に降りかかると、感謝で受け止めるという事ができない自分がいました。むしろ感謝ができる前に、生まれる前の我が子の不遇な状態を「浄化」だと受け止めるには時間がかかりました。

妻とも話し合いましたが、突きつけられた現実があまりに厳しく、途方に暮れ余りの悲しみで、すぐには信徒の皆様にもお祈りをお願いすることさえ出来ませんでした。先生からも「浄化は神の愛」と常に教えていただいております。

今までの自分なら、先輩や上司にアドバイスを求めて、浄化解決の糸口をつかもうとするのですが、専従前に、ある先達の先生からいた

だいた「あなたが明主様から頂いた浄化だよ。言えることはただ一つ、明主様に祈るしかない。迷うのは祈っていないからだ。必死に祈ることで必ず智慧をいただける。それが救いだよ」というアドバイスを思い出しました。また両親からは「子供は神様から許されてこの世に生れてくる。一人ひとり必ず使命を頂いて生まれるはず、生まれる子も必ず使命があるから、どのような状態であろうとも、神様から授けられた使命が全うできるように取り組むのが親としての責任ではないだろうか」と諭されました。

それから「浄化は神の愛」を実践するべく、親としての責任を果たすべく、智慧を頂けるよう、心新たに「祈り」の実践から始めました。子に御守護を頂きたいという気持ちは親として当たり前にある事ですが、そうではなく、その奥にある神様がお与えくださった、生まれてくる子が頂いた使命が果たせるようにお祈りをさせていただきました。

取り組む中で自分の気持ちが徐々に落ち着き、「神様が僕たち夫婦なら大丈夫だからと与えた新しい命。僕たち夫婦を見込んでくださったから、きっと困った時は守ってくださるから大丈夫!!」と、浄化を浄化たらしめ、感謝で受け止める事が出来るようになっていきました。

そのように受け止めることから、信徒の皆様にも我が子の浄化の有り様を素直に報告し、多くの信徒の皆様から、想念浄霊や御祈願をしていただける霊界を許されました。

また、信徒の皆様が、センターに頂いた浄化として取り組んでくださり、センター運営だけでなく3人の娘たちの心のケアや勉強面など多方面にわたりサポートして下さいました。このことも私たち夫婦の心の大きな励みになりました。すると、コロナ禍による入院先の変更問題や入院中の問題など、自分に取って都合の悪い案件がありましたが、次々とご守護をいただけ、少しずつ祈りの有り難さ、歓びの実感を得るようになりました。

そして令和3年5月31日　帝王切開にて出産しました。長寿や健康という願いを込めて「寿美」（コトミ）と名付けました。喜びもつかの間、産声はとても高くまるで子猫のような鳴き声だったようです。妻は意識が朦朧とするなかで、子どもと対面。抱っこや触れることもなく、そのまま別室に運ばれすぐに検査が始まりました。

自分が寿美と会えたのは出生から3時間後。PICUの集中治療室で人工呼吸器と20種類近い点滴に繋がられて寝ていました。医師は「胸腺が極端に小さく、鳴き声が高い事から染色体異常の確立が高い」との見解でした。そして翌日、出生から24時間も経っていない約2500gの小さな体で、開胸しての3時間の姑息手術に耐えました。術後一生懸命呼吸をし、生きようとしている姿に、私は思わず医師や看護師の前で涙を流していました。

そこでも神の意図がどこにあるのかと、冷静に考えました。染色体異常となると、今後さらに困難が予想され、不安が募るばかりでした。しかし、この頃には明主様への祈りの積み重ねから、自らの気持ちも固まりつつあり、お任せして、子供の使命を全うできるように、親として取り組もうと、祈ることができるようになっていました。祈ることで神に繋がり、すべてが神の計画であることの教えも実感として響きました。

生後3か月が過ぎ、2回目の手術日を迎えました。予定された3回の手術の中でも人工心肺を使用して、10時間以上に及ぶ大動脈の弓形成手術です。急遽人工血管を使用しない手術方法に代わるというご守護を賜り、無事に手術を終えることができました。2か月後の11月2日にようやく退院ができ、5月31日の出産から6ケ月後、初めて家族一つ屋根の下で暮らす事ができ、大きな喜びの日となりました。コロナ対策で病院にも行けなかった娘たち三人も大喜びで、寿美を受け入れてくれて、挙句は取り合いになるほどで、家族一緒に暮らせることの感謝と明主様の愛をこれほど感じたことはありませんでした。

その後、少しでも心臓が大きくなるようにと自宅で体重を増やし、今年の7月に最後となる3回目の根治手術に挑み、無事に大動脈離断症に対する手術の全工程を終えました。医師が一番心配した術後の心臓が、体に慣れるかどうかの課題も無事に乗り越えました。

医師の所見の厳しさを想起すれば、一つひとつ御守護の連鎖は本当に不思議なことでした。

一番の気づきは、浄化と受け止めることすらできなかったところから、み教え拝読と同時に、自ら進んでみ教えを実践することの大切さ、み教えを身につける、自分の血肉にすることで、信仰が本物になることを教えて戴けたと思います。

自らの殻を破ることで、浄化を信徒の皆様にも報告することができました。そうして北海道センターの多くの信徒の皆様から、寿美の浄化に対するお祈りをいただきました。新宿センターの皆様はじめ、エリアの皆様、信徒の知り合いを通じ、遠くは愛知のお会いした事がない信徒の方からもお祈り、励まし、支援をいただきました。多くの方々の祈りがあったからこそ、祈りの大切さを痛感した次第です。この場を借りてお取り組み頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

此の一年半を振り返って見ると、寿美の出生にあたり、今までに無い辛い苦しい思いを体験しましたが、浄化と数々の御守護と感動を体験させていただきました。また明主様のお働きと信仰の有り難さを教えていただきました。寿美は専従者として未熟であった親の自分を、明主様に繋げる役目を果たしてくれました。

寿美にいただいた御守護にお応えできるように、これからも、北海道の信徒の皆様と一緒に、明主様の願いである「神在り」の真理を宣布するため、自らの信仰を高める実践を積み重ね、「神を顕す」御用にお使いいただく所存です。

大神様、明主様ありがとうございました。

ブラジル信徒の信仰体験談

熱心な御教えの拝読で心配りができる人に

ヒアラ・マイナ・ドス・サントス・シルヴァ（女性16歳）

皆様、おはようございます。ヒアラ・マイナ・ドス・サントス・シルヴァと申します。祖父母の代から続く救世教の家庭に生まれ育った、信仰三世です。祖母はアマパ州の開拓布教に取り組んだ資格者で、両親や伯父叔母も布教員でした。また8歳になる私の弟も既に「小光」を拝受しています。

現在、私はベレン教会に繋がるマカパ浄霊センター（アマパ州）の青年部で級長のご奉仕をさせて頂いております。

本日は、御教えの学習に励んだことで大きな成長が許された私の体験を皆様にお話しさせて頂きたいと思います。

２０１９年2月、私たち家族は交通事故に遭いました。1台の乗用車がちょうど私が座っていた席の側面に追突したのです。怪我こそはありませんでしたが、心臓が縮むような思いをしました。そしてそれ以来クルマに乗るのが怖くなり、私たちのクルマに他の車両が近づいただけでパニックを起こしてしまうほどになりました。

事故からおよそ15日後、今度は遊園地で走行中のアトラクションの安全ベルトが外れ、乗り物の座席に足が一本挟まった状態で半身が空中に投げ出されるといった事故に遭いました。振り落とされないよう、私は高速で走行する乗り物に必死でしがみつきました。その後、事故に気づいた係員が慌てて遊具を停止して私を助けてくれました。病院に連れて行かれるほど多くの傷を負いましたが、命が助かったことに感謝しました。

立て続けに起こったこれら二つの事故は私の記憶に深く刻まれ、心理的トラウマとなりました。以来私は何に対しても怯えるようになり、クルマで出かけることにも、事故のあった遊園地の前を通ることにも強い抵抗感を抱くようになりました。と同時に「どうしてこんな不運に見舞われたのだろう」と不思議に思い、その答えを明主様の御教えに求めるようになりました。それまで自らの意志で拝読したことはありませんでしたが、それ以来私は祖母から御教えを借りて頻繁に拝読するようになりました（当時はまだ学校の宿題などで忙しく、毎日はできませんでしたが）。加えて、今まで以上にご浄霊のお取り次ぎやセンターでのご奉仕に励むようにもなりました。

２０１９年末、叔母が私に黙って「御教えオリンピック」の全国大会に私の参加を申し込んでいたことを知りました。最初は驚きましたが、御教えを毎日拝読する必要性を感じていた私はそれを絶好の機会と受け止め、それ以降どこへ行くにも御教えを持っていく習慣を身につけました。そして時間を決めて学習するのではなく、バス停や公共交通機関、学校の中庭など、いつでもどこでも拝読しました。こうして御教えの拝読は難なく私のルーティーンワークとなり、拝読しないと一日が終わらない―そんな気になるほど私の生活の一部となったのです。

御教えに日々接することで自分の考えや行動が変わりました。そして御教えに書いてあることの多くが日常生活の諸問題にずばりと解答を与えていることに気づき、浄化をより深く理解するようになると、気持ちも少しずつ穏やかさを取り戻し、事故のことも徐々に私の記憶から遠ざかっていったのです。

また利他の実践に目覚め、より協力的となり、助けを必要としている人がいれば、いつでも喜んで助けるようになりました。

そして「御教えオリンピック」の予選を勝ち上がっていくにつれて、私は自分が正しい道を歩んでいるという自信と、それに対する感謝の思いを深めていきました。

２０１９年12月、全国大会の決勝進出が決まったという知らせを受けました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、その決勝は延期されてしまいましたが、それでも私は全てを大神様と明主様の御手にお委ねし、御教えの学習を続けました。

またセンター長のアドバイスに従い、毎晩アマパ州の信者さんらと同じ時刻（午後８時）に、自宅で家族と浄霊会を開くようになりました。そして浄霊会の後、御教えを声に出して拝読し、体験談を一日一事例ずつ音読しました。

こうして信仰の基本行の実践は私たちの日常生活の一環となり、家族が浄化を乗り越える力となりました。また御教えの拝読を継続するうち、私は〝『天国の礎』改訂版の全巻がほしい〟、〝「救世信仰講座レベル１」を受講したい〟（２０２０年二学期に修了）と思うようになりました。

２０２１年２月、祖母が数日間私たちの家に泊まったことがあったのですが、その際、私の言動の変化に気づいた祖母から「よく気がつく子になったね」「周りに心配りができるようになったね」と褒められました。それを聞いて私はとても嬉しく思いました。それまでの私は注意散漫でしたし、頼まれない限り、またどうしても必要な時でなければ、家族を手伝おうとすることなどなかったからです。御教えを拝読する習慣が私を変えたのだと祖母は言いました。

それから数日後の２月28日、私は「御教えオリンピック」の決勝に出場し、そして優勝しました。自分の名前が呼ばれた瞬間は本当にびっくりして、喜びを抑えることができませんでした。

事故から２年近くが経つ今、物事に対する自分の見方がどれほど変わったかを思う時、また霊界を意識しながら利他愛の実践に励んでいる自分を見る時、とても感慨深いものがあります。

私の心は事故のトラウマに代わり、大きな感謝の気持ちで満たされるようになりました。なぜならこの浄化を通じて御教えを熱心に拝読するようになり、そのおかげで霊性の向上と人としての成長が許され、御神業に更なる精進を誓えるようになったからです。

今後、一人でも多くの青年たちをこの信仰の道へと導き、地上天国建設のお役に立つことができるよう後押ししてまいりたいと思います。

救世教信徒として、御用奉仕と信仰実践を通じて絶えず進歩向上を続けていくお許しを頂いていますことを、大神様、明主様、祖霊様、そして私の家族に感謝したいと思います。

ありがとうございました。

「映画『となりのトトロ』と自然農法」その②

高頭　和生

前回は、宮崎駿監督の「となりのトトロ」というアニメーション映画を取り上げました。そして物語の後半の、メイちゃんが「このトウモロコシを食べればお母さんは元気になる」と信じて、お母さんへ届けに行くラストシーンから、宮崎監督は「自然の中で育った食べ物の力」「食べ物の大切さ」を子供たちに伝えたかったのではないかと考えてみました。

今回は、メイちゃんがお母さんに届けたトウモロコシに宿る病気を治す力、健康に導く力にスポットをあて、畑の力、作物の力の根源である自然農法を掘り下げてみましょう。

自然農法とは

私が自然農法をお友達に伝えるとしたら、次の６つのポイントを伝えると思います。

① 人類の食料を担う生産力を持つ農業法。

② 大自然との調和の中で作物が育ち、その仕組みから真理を学ぶことが出来る。

③ 自然農法の成果物は霊気が多く、私たちを健康に誘う生命の力が宿っている。

④ 農薬や化学肥料を必要としないので、経済効率よく地球環境を保全し、体にも良い。

⑤ 生産者の心や思いが成果に影響するので、目に見えない世界の大切さを知る。

⑥ 農業を通して、神さまの働きを知ることができる。神を顕す農業法。

これは、私なりの解釈なので、これ以外にも捉え方はたくさんあると思います。

メイちゃんのトウモロコシの力は、③の「自然農法の成果物は霊気が多く、私たちを健康に誘う生命の力が宿っている。」に、あてはまると思います。

図①をご覧ください。左は慣行農法（一般の農薬・化学肥料を使う農法）、右は自然農法の畑です。タネを植え、水をあげ、お日さまの光を浴びます。慣行農法の土には、作物が育つために必要とされている三大栄養素のチッソ、リン酸、カリが、化学肥料によって蓄えられています。根からは負担なく栄養を吸い上げるので、芽はとても元気に育ちます。根はさほど育つ必要はありません。

右手の自然農法の土には、あえて肥料（栄養）を入れませんので、発芽した葉は弱々しく栄養失調のようにも見えます。田植えした後の自然農法の田を見ると、「大丈夫かな…？」と思うくらい、周りの田んぼより弱々しく見えます。しかし土の中では、少ない栄養を一生懸命確保しようと、根はとても力強く成長しています。栄

養を摂取する力、少ない栄養を効率よく成長するために変化させる力が宿ります。そして土の中にある細菌や微生物、線虫や昆虫、小動物など、天文学的数値の数ある生き物のいのちに応援されながら、発芽したいのちは、自らの力で「生きて行こう！」という体質となります。これが自然農法の特徴です。

図②をご覧ください。生きる力が備わった右側の自然農法は、気温や湿度、天候状態に適した成長の仕方を、遺伝子と相談しながら過去の経験と照らし合わせ、自らの判断で適当な栄養を摂取し、それを成長の力に変化させ育ちます。無駄の無い必用なだけの栄養摂取なので、葉色は淡いみどり色で、左右のバランスもよく理想的に育ってゆきます。

一方左側の慣行農法は、与えられた栄養を苦労なく接種して行きますが、調整能力が弱いため、栄養過多になりやすいようです。土壌にチッソが多いと、作物にはアブラムシが発生します。栄養が多すぎると、人間と同じように病気にもなることがあります。また、よく例えられるのが、河原に生息するスギナです。スギナは酸性の土壌に生息することが多いのです。そのスギナはアルカリ性です。スギナが沢山育つことで、土を中性に戻そうとする働きがあるようです。このように自然界は、何かが偏った時は、それを正常に戻し、全てのものを調和させようとする働きがあるようです。

そう思うと、害虫や作物の病気は、私たちの目から見ると悪モノですが、大自然からは、何かに偏った状態を元に戻そうとする働きであり、浄化作用なのかもしれません。しかし慣行農法は、それらに対して、対処しようとします。それは殺菌剤や殺虫剤という農薬です。殺菌剤や殺虫剤は土にも影響を与えます。土にビニールシートを被せ、ガスを使って直接消毒するやり方もあります。当然、土の中の生物（いのち）は死んでしまいます。当然、土はやせて弱って行きます。そのため化学肥料を補充して次の作物を作る準備をし、これを繰り返してゆきます。

自然農法で育った食べ物は、生きる力に支えられ、生きる力が備わっていると考えられます。それら食べ物は、食べた私たちの身体にも生きる力を授けてくれます。この生きる力が明主様の言われる霊気でもあり、メイちゃんのトウモロコシに宿っていたのだと信じています。

もう一度『となりのトトロ』を観たくなりました。お母さんは元気になったのでしょうか。最後の「トトロ～トトロ～♪誰かが～こっそり～♪～」というエンディング曲を聞きながら、最後のエンドロールまでしっかり観てみたいと思います。おしまい

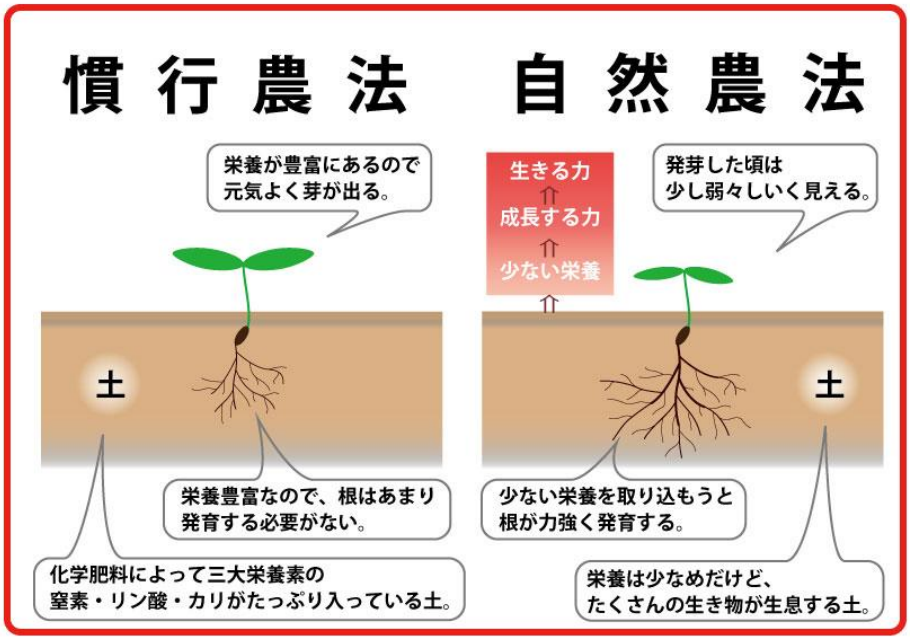
慣行農法
自然農法
栄養が豊富にあるので
元気よく芽が出る。
生きる力
成長する力
少ない栄養
発芽した頃は
少し弱々しいく見える。
土
土
栄養豊富なので、根はあまり
発育する必要がない。
少ない栄養を取り込もうと
根が力強く発育する。
化学肥料によって三大栄養素の
窒素・リン酸・カリがたっぷり入っている土。
栄養は少なめだけど、
たくさんの生き物が生息する土。

図 ①

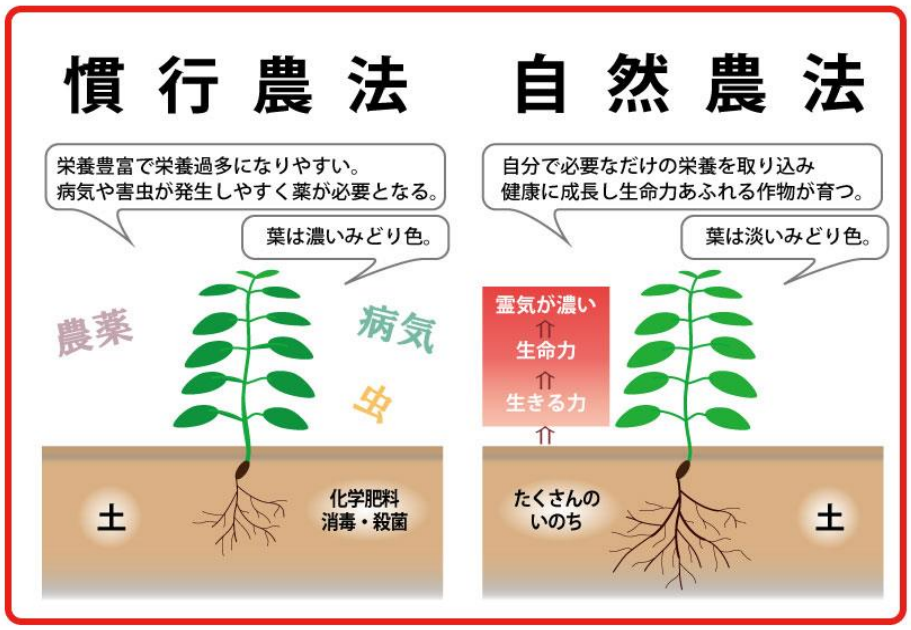
慣行農法
自然農法
栄養豊富で栄養過多になりやすい。
病気や害虫が発生しやすく薬が必要となる。
自分で必要なだけの栄養を取り込み
健康に成長し生命力あふれる作物が育つ。
葉は濃いみどり色。
葉は淡いみどり色。
農薬
病気
虫
霊気が濃い
生命力
生きる力
土
化学肥料
消毒・殺菌
たくさんの
いのち
土

図 ②

楓　Autumn leaves

世界救世教　明主様と聖地に直結する会

（聖地直結の会）

〒413-0006

熱海市桃山町26－1　救世会館１階

電　話　0557　85　8060

Ｆａｘ　0557　85　8185

Mail　seichicyokketsunokai@outlook.jp